



ディスカッション

新たなプロジェクトや 問いを立ち上げるための ヒントを探る 4つの対話シリーズ

独自の切り口で、表現を介した、さまざまな実践に取り組むゲストをお招きします。

いまの社会を、どうとらえ、どのような手法で向き合っているのか。

ゲストの実践を共有し、お互いの対話を通して、今後の取り組みの課題や可能性を探ります。

モデレーター：上地里佳

(アーツカウンシル東京プログラムオフィサー)

ディスカッション 1

1月29日(水)

どこまでが「公」？どこまでが「私」？

まちを使い、楽しむ暮らしをつくる

ゲスト：mi-ri meter (アーティスト/建築家)

阿部航太 (デザイナー/文化人類学専攻)



ディスカッション 2

2月5日(水)

誰と暮らす？どう住まう？

これからの「家族」のカタチを考える

ゲスト：首藤義敬 (株式会社Happy 代表取締役)

いわさわたかし (岩沢兄弟/有限会社バッタネイション 取締役)



写真：ただ (ゆかい)

ディスカッション 3

2月12日(水)

ゆるやかに混ざり合う社会はどう生まれる？

「違い」を「出会い」に変換する

ゲスト：横堀ふみ (NPO 法人DANCE BOX プログラムディレクター)

徳永智子 (筑波大学人間系教育学域助教)



写真：岩本順平

ディスカッション 4

2月19日(水)

記憶・記録を紡ぐことから、いまはどう映る？

見えないものを想像するために

ゲスト：佐藤洋一 (都市史研究/早稲田大学社会科学総合学院教授)

瀬尾夏美 (アーティスト)



写真：佐藤洋一

時間 19:00 ~ 21:00 (開場 18:30)

定員

各回 25 名 (事前申込制/先着順)

会場 ROOM302 (3331 Arts Chiyoda 3F
[東京都千代田区外神田 6-11-14-302])

申込方法

Tokyo Art Research Lab ウェブサイトより
お申込みください。

参加費 無料

<https://tarl.jp/school/2019/dis2019/>



※お寄せいただいた個人情報は厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用いたします。
※プログラムの内容は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

目まぐるしく変化し続ける都市・東京は、さまざまな思考や価値観が絡み合う、複雑でとらえがたい存在です。そのような都市の暮らしの中で、見えづらくなっていること。そのことへの応答として、このディスカッションシリーズでは4つのテーマを設けました。

公と私の境界の所在、共に生きる「家族」のカタチ、異なる価値観との向き合いや出会いかた、「いま」ととらえなおすための試み。これらのテーマは東京のひとつの側面ではありますが、まずはこの4つのテーマを手がかりにして、これからの東京を考えるための回路をつくることを試みます。

1 どこまでが「公」？どこまでが「私」？ —まちを使い、楽しむ暮らしをつくる 2020(令和2)年1月29日(水) 19:00~21:00

「公」と「私」をどのように認識するかによって、まちでの生活や個人のふるまいを妨げたり、逆に広げたりすることにもつながるのではないのでしょうか。「公」と「私」の境界性とは何か。また、公共的な空間と自分との間に、居心地の良い距離感をつくるために必要な思考や身体性とは、どのようなものがあるのでしょうか。ゲストの思考と実践から、そのヒントを探ります。



mi-ri meter
(アーティスト/建築家)



阿部航太
(デザイナー/文化人類学専攻)

2 誰と暮らす？どう住まう？ —これからの「家族」のカタチを考える 2020(令和2)年2月5日(水) 19:00~21:00

家族との関係や生活環境、社会状況の変化の中で、それぞれなりの“家族のカタチ”を立ち上げようとするとき、地域コミュニティとの関わりや住まう家はどのようなかたちが考えられるのでしょうか。“家族のカタチ”という、答えのない状況に向き合うお二人の思考と実践について、アートプロジェクトにおけるコミュニティや拠点形成のあり方も重ねながら、お話を伺います。



首藤義敬
(株式会社Happy 代表取締役)



いさわたかし
(岩沢兄弟/
有限会社バッタネイション 取締役)
写真:ただ(ゆかい)

3 ゆるやかに混ざり合う社会はどう生まれる？ —「違い」を「出会い」に変換する 2020(令和2)年2月12日(水) 19:00~21:00

「違う」ことで分断されたままにあるのではなく、「新たな発見や出会い」としてつなげるための実践とは？ 同じ土地に暮らし、これからの社会を担っていく一人として、多様性を受け止めながら、これからの暮らしをつくっていくための文化・芸術の可能性とは？ ディスカッションから、これからの実践の可能性について探ります。



横堀ふみ
(NPO 法人 DANCE BOX
プログラムディレクター)
写真:岩本順平



徳永智子
(筑波大学人間系教育学域助教)

4 記憶・記録を紡ぐことから、いまはどう映る？ —見えないものを想像するために 2020(令和2)年2月19日(水) 19:00~21:00

いま見ている風景や知っている出来事について、視点をずらしたり、他者の記憶やまなざしに出会うことで、私たちが生きる時代について考えることにつながりうるのか。史実からはこぼれ落ちてしまう暮らしやものごとを、どのように継承しうるのか。重ねてきた実践、そこから生まれた問題意識や可能性についてお話を伺います。



佐藤洋一
(都市史研究/
早稲田大学社会科学総合学院教授)



瀬尾夏美
(アーティスト)

Tokyo Art Research Lab 「思考と技術と対話の学校」とは

アートプロジェクトの担い手のための実践的なスクールプログラム。社会的な課題を「思考」し、アートプロジェクトの現場をつくるための「技術」を磨き、問題意識を共有するメンバーと「対話」しながら展開しています。

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo
FESTIVAL

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

問い合わせ：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

Tel：03-6256-8435 (平日 10:00～18:00)

E-mail：tarl@artscouncil-tokyo.jp